



コロナ禍の影響で学費が払えなくなってしまった19歳の少女。プロジェクトからの支援で進学でき、今では刺繍をしながら自分で学費を稼いでいる

面倒をしています。女の子のクラスもありま
す。このプロジェクトを今年始められて、本
当に良かったと思います。コロナ禍で、子ど
もたちの家庭の収入への影響は非常に大き
いので、こうした試みがなければ学校からド
ロップアウトしてしまう子どもたちも多かつ
たでしょう。私たちは子どもたち一人一人
にファイルを作成し、子どもたちがどんな出
身で、どんな背景を持っているのか、彼らの
生活のエピソードや写真を記録しています。
補習授業の内容ですが、学校のカリキュラ



子どもたちへの授業風景

アッサム州プロジェクト 進捗状況報告

木村真希子（津田塾大学学芸学部、ジュマ・ネット運営委員）

を取り入れるほか、災害対策についての簡
単な授業をしています。あとは、ボランティ
アの人たちが臨時雇いの教員たちに外国語
の教え方の訓練をしてくれたおかげで、英
語の授業なども取り入れることができいま
す。
木村●収入向上活動はいかがでしょう。
アブドゥール●前回もお話しましたが、手
工艺品づくりの一環として、カタ」とい
う刺繍を施す布製品作りが女性たちの間で
好調です。カタ」はカタ／ノクシカタ」とも
いい、ベンガル地域で広くみられます。アッサ
ムでは、移民出自の家庭でベッドカバーや上
掛けに独特の刺繍を施すものとして家庭や
親戚への贈り物として使われてきましたが、
販売されることはありませんでした。
今回、ジュマ・ネットからの支援をきっかけ
に、女性たちの間でベッドカバーや上掛けを
作るプロジェクトを始めました。私の妻のモン
ジュが中心になってコーディネートしていま
す。こちらで布や糸を支給し、女性たちに
刺繍の訓練を施して製品を作ってもらい、
販売につなげています。地域の手工芸品販
売促進会など、機会があるごとに出品して
いますが、とても好評です。

前回のニュースレターでインド・アッサム州で
開始したプロジェクトについて報告しました。
今回はその後の動向について、再び現地
パートナーNGOスタッフのアブドゥールさん
に聞きました。

*

木村●教育支援プロジェクトについて、進捗
状況はどうでしょうか。

アブドゥール●順調に進んでいます。10の
地域で、270人の生徒たちに教育を行って
います。そのうち6つの地域はジュマ・ネット
からの支援で賄っています。

教育支援は、まず10のチヨルという川に
浮かぶ島の地域を選定し、事前調査を実施
しました。これらの地域は、洪水や河岸浸
食が起きると非常に学校に行くのが難しく
なります。今年はさらに、これにコロナ禍が
重なり、子どもたちは教育を受けることが
非常に困難になりました。

10の地域では、それぞれ25人から30
人の子どもたちを対象としています。臨時
雇いの教員たちが10人ほど、各地を回って
います。補習授業をする際には5人から1
0人くらいの子どもたちを集めて、丁寧に

木村●フェイスブック上でよく見えています。
ほとんど刺繍が精緻な柄になって、質が良
くなっていますね。

アブドゥール●はい、最近は枕カバーや
ショールなど、他の製品も作成し始めました。
需要はあるという手ごたえがあるので、こち
らも力を入れて継続したいと思います。

コロナ禍で、外に働きに行けなくなった人
たちが大勢います。そうした世帯では、家で
女性たちが実施できるこのプロジェクトの収
入は非常に助かっているようです。今までは
近隣のほかの家で農作業を手伝って日雇いの
賃金をもらっていましたが、刺繍なら外に
行かずに家でできます。男性たちが仕事が
ない場合には、家で女性たちが刺繍をしてい
る間に男性たちが子どもを面倒を見るなど、
ジェンダー教育の観点から思わぬ効果も生
まれました笑。

*

コロナ禍で厳しい状況が続きますが、順調
にプロジェクトが進んでいる状況がうかがえ
ました。3本あるプロジェクトの残りの一つ、
被害者のネットワーク化にも今年中にぜひ
取り組みたいということです。また進捗状
況を報告していきたいと思っています。